

第92回 中小企業景況調査報告書

10月～12月の実績と
1月～3月の見通し

■ 今期調査の景況キーワード

前年同期比売上D I値は▲19.8で、前期調査時より全業種で0.6ポイント増加した。来期見通し売上D I値は▲31.7で、今期より11.9ポイントの減少を予測している。地域の实体经济は、持ち直しの動きが見られるものの、建設業では来期見通しの業況を大幅に悪化すると予測しており、依然として厳しい状況にある。景況のキーワードとしては、「需要の停滞」「価格の低下」「競争の激化」などが挙げられる。

■ 調査時点 平成22年9月30日

■ 対象業種

製造業 25社(25) 建設業 23社(19)
卸売業 18社(15) 小売業 30社(24)
サービス業 21社(16) 合計 115社(99)

※()内は回答企業数

■ 回答率 86.1%

概況

◆ 売上状況(前年同期比)では、売上D I値▲19.8を示し前期調査時より0.6ポイント増加した。業種別では小売業で21.0ポイント、卸売業2.7ポイント、建設業1.4ポイント増加したが、サービス業29.3ポイント、製造業で0.1ポイント減少した。来期見通しD I値は▲31.7で、今期調査時より11.9ポイントの減少を予測している。

◆ 採算水準(前年同期比)では、D I値は▲34.7で、前期調査時より6.2ポイント好転した。業種別では小売業で34.0ポイント、サービス業5.9ポイント、卸売業2.1ポイント、製造業1.4ポイントと好転したが、建設業で18.5ポイント減少した。来期見通しD I値は▲36.7で、今期調査時より2.0ポイントの悪化を予測している。

◆ 仕入単価(前年同期比)では、D I値は▲32.6で、前期調査時より11.1ポイントと悪化した。業種別ではサービス業で11.8ポイント、製造業2.1ポイント好転したが、建設業で37.1ポイント、小売業23.0ポイント、卸売業2.4ポイント悪化した。来期見通しD I値は▲31.6で、今期調査時より1.0ポイント好転を予測している。

◆ 資金繰り(前年同期比)では、D I値▲30.7で、前期調査時より2.6ポイント好転した。業種別では、小売業で33.0ポイント、卸売業14.5ポイントと好転したが、サービス業で17.7ポイント、建設業14.5ポイント、製造業で5.9ポイント悪化した。来期見通しD I値は▲31.7で、今期調査時より1.0ポイント悪化を予測している。

◆ 雇用人員(前年同期比)では、D I値▲5.9で、前期調査時より1.6ポイント過剰を示した。業種別では、卸売業で17.7ポイント、製造業13.5ポイント、小売業9.0ポイント

の過剰を示し、サービス業で5.9ポイント、建設業で4.7ポイント不足を示した。来期見通しD I値は3.0で、今期調査時より8.9ポイント過剰を予測している。

◆ 業界の状況(前年同期比)では、D I値▲64.4で、前期調査時より9.6ポイント好転した。業種別では卸売業12.1ポイント、小売業2.0ポイント好転したが、製造業で4.4ポイント、建設業18.5ポイント、サービス業17.6ポイント悪化した。来期業況のD I値は▲62.4で、今期調査時より2.0ポイントの好転を予測している。

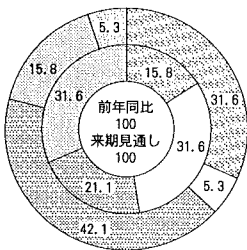
◆ 設備投資では、今期実施した企業は12.9%で、来期の設備投資を計画している企業は4.0%であった。

◆ 経営上の問題点としては、製造業では「需要の停滞」「製品(加工)単価の低下」「原材料単価の上昇」、建設業では、「請負単価の低下・上昇難」「官公需要の停滞」「民間需要の停滞」、卸売業では、「需要の停滞」「メーカーの進出による競争の激化」「販売単価の低下」「人件費以外の経費の増加」、小売業では、「消費者ニーズの変化」「購買力の流出」「販売単価の低下」、サービス業では、「需要の停滞」「利用者ニーズの変化」「利用者料金の低下上昇難」となっている。

業種別売上

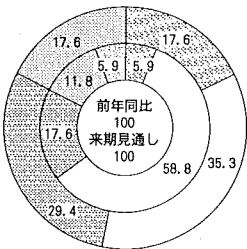
(外円は前年同期比、内円は来期見通し)

▼ 建設業



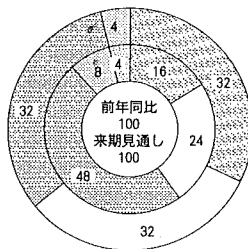
(単位: %)

▼ サービス業



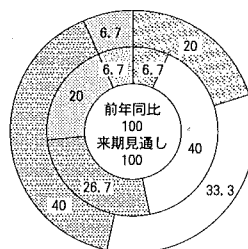
(単位: %)

▼ 小売業



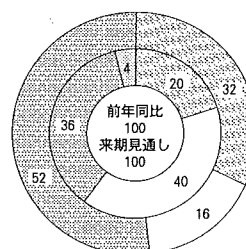
(単位: %)

▼ 卸売業



(単位: %)

▼ 製造業



(単位: %)

かなり増加
やや増加
変わらない
やや減少
かなり減少
回答なし